

# STAR

# ニューフォームナイト

取扱説明書

製品コード 80022・80023

型 式 HTK8070・HTM8070

部品ご注文の際は、ネームプレートをお確かめの上  
部品供給型式を必ずご連絡下さい。

“必読” 機械の使用前には必ず読んでください。

---

株式会社IHIスター

# 目 次

項 目	頁
《はじめに》 .....	1
《本製品の規制について》 .....	1
《保証とサービスについて》 .....	1
《定義とシンボルマークについて》 .....	2
《安全に作業をするために》 .....	2
《機械を他人に貸すときは…》 .....	6
《方向について…》 .....	6
《各部の名称》 .....	7
《各部のはたらき》 .....	8
《上手な運転のしかた》 .....	10
運転前の始業点検 .....	10
エンジン始動・停止のしかた .....	10
走行・旋回・変速・停止のしかた .....	13
トラックへの積み降ろしのしかた .....	15
《作業機脱着のしかた》 .....	16
作業機の取り外しかた .....	16
作業機の取り付けかた .....	17
《作業のしかた》 .....	18
作業の始めかた .....	18
作業の終わりかた .....	18
《長期保管のしかた》 .....	19
《各部オイルの点検・交換・注油のしかた》 .....	20
ミッションオイルの注油・点検・交換 .....	20
各部への注油のしかた .....	21
エンジンオイルの注油・点検・交換 .....	21
《各部の点検・整備・調整のしかた》 .....	22
点火プラグの点検・調整のしかた .....	22
燃料フィルタポットの エアクリーナの清掃のしかた .....	22
清掃のしかた .....	24
タイヤ空気圧の調整のしかた .....	23
そのほかの点検 .....	24
燃料パイプ点検のしかた .....	23
各部ワイヤ調整のしかた .....	25
《仕 様》 .....	27
《工具袋・同梱品明細》 .....	28
《消耗品明細》 .....	28
《定期自主点検表》 .....	29
《自己診断表》 .....	30
《エンジンの不調とその処理方法》 .....	31

## 《はじめに》

このたびは、本製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございました。

この取扱説明書は本製品を常に最良の状態に保ち、安全な作業をしていただくために、正しい取扱い方法と簡単なお手入れ方法について説明してあります。

ご使用前に必ずこの取扱説明書を良くお読みいただき、安全な運転作業と正しい取扱方法を十分理解し、安全で能率的な作業にお役立て下さい。

又、お読みになった後は必ず大切に保管し、本製品を末永くご使用頂けますようにご活用下さい。

尚、品質・性能向上及びその他の事情による部品等の変更で、お手元の製品と本書の内容が一部一致しない場合がありますので、あらかじめご了承下さい。

## 《本製品の規制について》

本製品は、弊社にて農業用として開発された各作業機の本機として製造されておりますので、それ以外の用途には使用しないで下さい。

## 《保証とサービスについて》

本製品の保証期間は、購入後1ケ年間、又は50使用時間（業務用については6ケ月間、もしくは50使用時間）の内どちらか早い時点で到達した方となっております。ご使用中の事故・ご不審な点及びサービスに関するご用命は、お買い上げ頂いた販売店又は、当社営業所までお気軽にご相談下さい。その際、『商品型式と製造番号・搭載エンジンの型式名』を併せてご連絡下さい。




### ※注意：

「取扱説明書」に記載してある適正な点検・整備を怠った場合、及び仕様をこえた使用・改造等によつての故障・事故については、保証の対象外となります。

◎この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年と致します。但し、供給年限内であっても、特殊部品につきましては納期等について、ご相談させていただく場合もあります。又、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

## 《 定義とシンボルマークについて 》

本書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）に従って、次のような定義とシンボルマークが使用されています。以下のシンボルマークがもつ意味を十分に理解し、その内容に従って下さい。

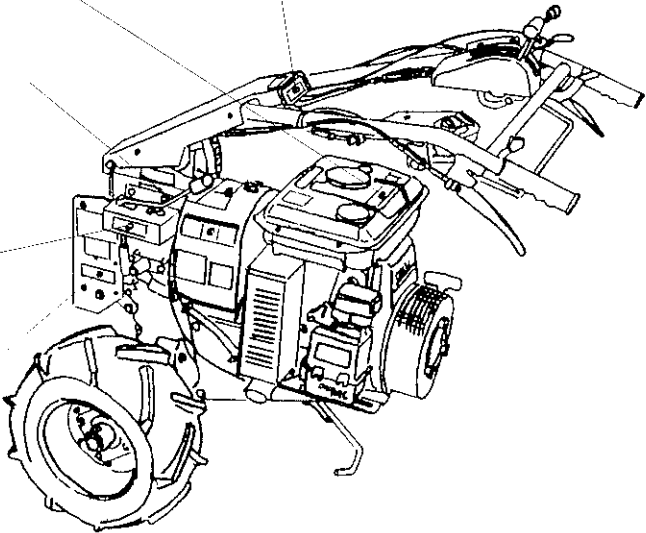
シンボルマーク	定 義
 <b>危険</b>	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
 <b>警告</b>	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
 <b>注意</b>	その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。また、遵守又は矯正しないと、製品自体に損傷を与えるものも示します。
<b>参考；</b>	操作、保守において知っておくと得な製品の性能、誤りやすいミスに関する事項を示します。



## 《 安全に作業をするために 》

### （ 1 ） 警告表示マーク


・以下の危険表示マークは本項目内における重要危険事項の中からとくに重要なものとして厳選されており、本体に貼付されています。ご使用の前に必ずお読みいただき、十分理解して必ず守って下さい。

- …警告表示マークが見えにくくなった場合には、貼り変えるなどして常にはっきり識別できるようにしておいて下さい。 〈28頁…消耗品明細参照〉
- …本機はガソリンを燃料としており、作業中はもちろん機械のそばでのくわえたばこや焚き火等の裸火照明は引火の危険がありますので、絶対にしないで下さい。







 <b>注意</b>	<b>保管時の注意</b> 緊急時以外は、燃料コックを「閉」位置にし、キャブレタ内のガソリンを使い切った後、エンジンを停止して下さい。キャブレタの燃料がガソリンの場合、燃料がこぼれ、エンジンが乾燥して故障の原因となります。	 <b>危険</b>	<b>火災注意</b> カバーをかけた後、エンジンが十分に冷えた後に、カバーをはずして下さい。
--	--	--	--


83-1487-908-00

 <b>注意</b>	
安全の為、作業機なしの場合、P.T.O クラッチは「入」位置にしないで下さい。	

80-1761-905-00

 <b>危険</b>		
 エンジン回転中は危険です。点検・調整時にはエンジンを止めて下さい。	 安全カバーなしの作業は危険です。必ず安全カバーを装着して下さい。	 回転部分は危険です。身体を近づけないで下さい。

83-1515-907-00

 <b>注意</b>
このカバーなしの作業は危険です。安全の為、運転時には必ずこのカバーを取り付けて下さい。

83-1516-908-00

<b>運転中は このカバー内は危険です</b>
-----------------------------

83-1415-908-00

**注 意**

安全の為、取扱説明書を熟読の上、内容を十分に理解して御使用下さい。

83-1516-915-00

**運転中は  
このカバー内は危険です**

83-1415-908-00

**危険**

車への乗せ降ろしは危険です。転落しない様に注意して下さい。

傾斜地での作業の際は、転落しない様に注意して下さい。

バック時は危険です。機械との向き忘れ、及び力がかかる転落に注意して下さい。

83-1515-911-00

**危険**

刃物の鋭利な部分で、使用時に怪我に注意して下さい。

使用時に、回転部分と直撃しない様に注意して下さい。

作業時に、移動部分の動きに注意して下さい。

83-1515-913-00

**注 意**


総排気量 300cc、または最大出力 8.5ps を超えるエンジン搭載の場合、安全の為、ロータリー（中耕・溝堀）作業は避けて下さい。


(176) 9080 C3)

83-1761-908-00


## （ 2 ） 作業前の注意

- ・ 本機の運転に際しては、使用上の注意事項を十分理解し、安全運転を徹底して下さい。
- ・ 所有者以外の人には使用しないで下さい。
- ・ オペレーターの体調が悪いときや過労ぎみ、飲酒時のときは作業しないで下さい。又、子供や妊婦にも作業させないで下さい。
- ・ 作業を開始するときには、周囲に人や動物、車両等がないことを確認して下さい。
- ⚠ **安全のためのカバー類はもとより、標準に装備されている部品を外しての運転は、非常に危険です。事故防止のためこれらのカバー類、部品は必ず装着した状態で使用して下さい。**
- ・ 必ず、タイヤセットピンが確実に取り付けられているか点検し、不完全の場合は確実にセットし直して下さい。
- ⚠ **排気ガスによる中毒防止のため、屋内では使用しないで下さい。**
- ・ 椅子等の乗用装置のないもの（歩行タイプ）は乗用できません。これらのものに、人や動物を乗せないで下さい。
- ・ 転落防止のため、川や崖に向かっての作業はしないで下さい。
- ・ 走行クラッチが「Ⓜ」の時、Vベルトが確実に止まっているか点検し、もし少しでも動いている場合には、速やかにエンジンを停止しベルト押え、ワイヤーを調整して下さい。
- ・ 10°以上の勾配での傾斜地作業や、トラック搭載用ブリッジの勾配が15°をこえると危険です。安全作業のため、これらの勾配角度未満でご使用ください。

 斜面で不要に走行クラッチを切ったり、チェンジレバーを中立にすると暴走し危険です。斜面では、これらの操作をしないで下さい。


 斜面で本機の山側にいると足を滑らせた場合、本機の下側に身体が入ることがあり危険です。特に湿った斜面は滑りやすく危険です。斜面では、本機の山側にはいないようにして下さい。

- ・平坦部と傾斜部との境目（路肩）を走行する場合は、路肩崩れや転落の危険性があります。十分に安全な平坦地を走行して下さい。
- ・狭い橋の上を走行する場合、転落の危険性があります。狭い橋等は走行しないで下さい。


 暗い時、視界が悪いときの使用は危険です。周囲の状況が十分に把握できないときには使用しないで下さい。

### （ 3 ） 燃料給油時の注意

- ・給油は必ず燃料タンクの油面上限マーク以下にし、万が一多く入れ過ぎたときは、マーク以下になるまで抜き取り、又周辺にこぼれた燃料は必ずふき取って下さい。

 火傷や火災の危険がありますので給油はマフラの温度が十分下がってから行って下さい。


### （ 4 ） 始動時の注意


- ・エンジンの回りや排気ガス方向には、燃えやすいものを近付けないで下さい。
- ・走行クラッチ、P.T.Oクラッチを「」位置にし、変速レバーを「中立」位置にして、ブレーキがあるものはブレーキを掛けてから始動して下さい。
- ・回りに人や動物や車両等がない事を確認し、また周囲の安全を確認してから始動してください。

### （ 5 ） 積み降ろし時の注意 （15頁参照）

- ・平坦で安全な場所を選び、トラックが動き出さないようにエンジンを止め、ギヤをバックに入れ、サイドブレーキを引き、車止めをして下さい。
- ・丈夫なブリッジを確実に掛け、ゆるい勾配でエンジン回転を下げ、積み込みは「前進」位置、降ろす時は「後進」位置でゆっくり行いその他の位置には絶対入れないで下さい。

### （ 6 ） 作業中の注意



- ・安全のため、余裕を持った運転を心掛け、急発進・急停止・急旋回はしないで下さい。
-  排気マフラ付近は熱いため、火傷をしないよう、手等を近付けないで下さい。
- ・バックする時は、子供や動物がいない事を確認して機械との間に挟まれたり、崖からの転落等がない様足場に注意して下さい。
  - ・ベルトスリップによる異常な音・匂い・発熱は火災の原因です。その様な時は、すぐにエンジンを停止して点検・修理して下さい。

-  冷却風の吸込口、シリンダ付近の草詰まりはエンジンの焼付きや火災の原因です。外側のみならず、内側もこまめに清掃して下さい。又、エアクリーナ内部の清掃も同時に行ってください。

### ( 7 ) 作業終了後の注意

- ・本機より離れる時は、必ずエンジンを止めて下さい。キースイッチがある物は、キーを抜いておいて下さい。
- ・安全のため、燃料コックは必ず閉めて下さい。

### ( 8 ) 点検・整備時の注意

- ・機械の点検・調整・整備をする時は、必ずエンジンを停止して下さい。
-  ベルト部の安全カバーの破損は使用前に必ず修理しておいて下さい。
- ・取り外した回転部のカバー類は、必ず元の位置に正しく取り付けて下さい。
-  ゴムなどの燃料パイプは古くなると、燃料漏れの原因となり危険です。3年ごと、又痛んだ時には、締め付けバンドとともに新品と交換して下さい。
- ・走行クラッチ・P.T.Oクラッチ・ブレーキ・スロットル・ギヤチェンジ等の点検、調整は十分に行ってください。
- ・点検・整備を行う場合、又シートをかける場合は火傷や火災を防ぐため、マフラやエンジン本体の冷却状態を十分確認したうえで行って下さい。
- ・走行（駐車）ブレーキのあるものについては安全のため、使用時間が100時間に到達しない時点で交換して下さい。

## 《 機械を他人に貸すときは… 》

所有者以外の人には作業させないのが原則ですが、やむを得ず機械を他人に貸す場合には、取り扱い方法を説明し、「取扱説明書」をよく読んでもらい、取り扱い方法や安全のポイントを十分理解してから作業するように指導して下さい。

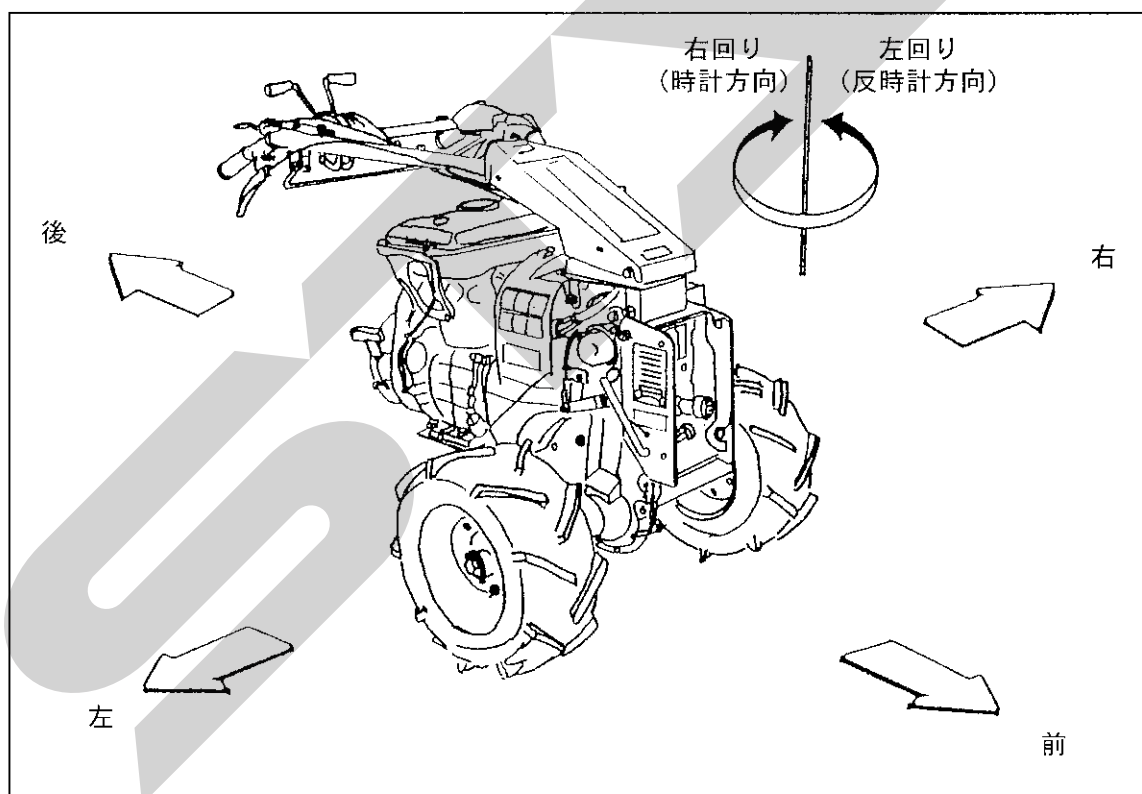
機械と一緒に「取扱説明書」も貸してあげて下さい。

親切心から機械を他人に貸して、借りた人が不慣れなために思わぬ事故を起こしたりするとせっかくの親切があだとなってしまいます。

## 《 方向について… 》

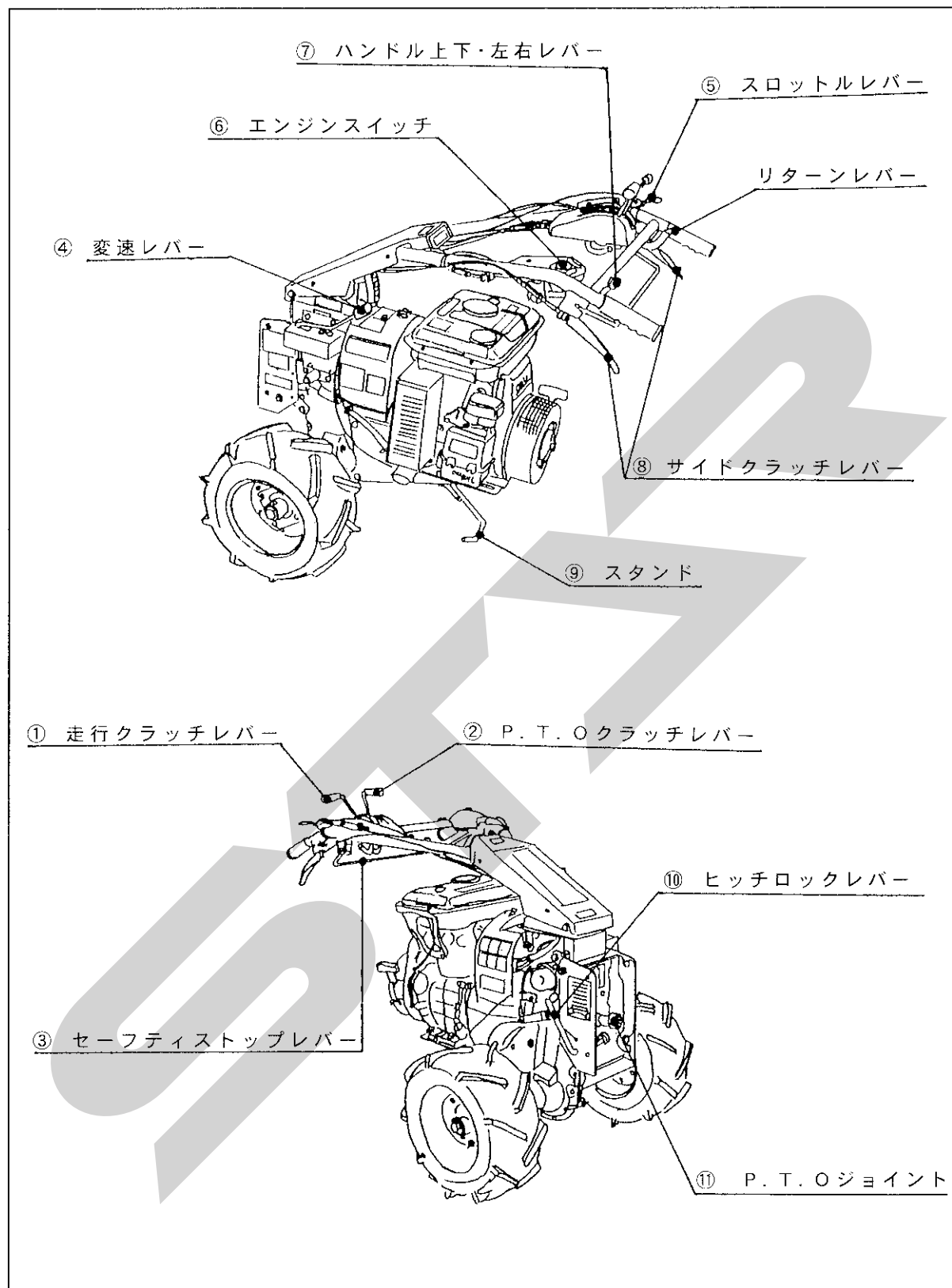
この取扱説明書で説明している「前後・左右・左回り・右回り」などの用語は、図示のように作業員から見た方向で決めています。

また、本文中の「前進・後進」についても、作業員から見た方向で表します。





# 《各部の名称》



## 《各部のはたらき》

### ① 走行クラッチレバー

エンジンからミッションへの動力を断続させます。レバーを前に倒すと「Ⓐ」の状態、貴方の方へ引くと「Ⓑ」の状態になります。

レバーの入れ換えによって一つの変速位置に対して二つの走行速度を選択することが出来ます。

- リターンレバーの採用によりハンドルから手を離すことなくワンタッチで「Ⓑ」の状態にすることが出来ます。

### ② P. T. Oクラッチレバー

エンジンから作業機への回転を断続させます。レバーを前に倒すと「Ⓐ」の状態、手前の方へ引くと「Ⓑ」の状態になります。

- ブレーキ付き多板クラッチの採用により、P. T. Oクラッチレバーを「Ⓑ」位置にすると作業機は瞬時(2～3秒)に停止します。
- 安全のため、旋回時・トラックへの積み降ろし時にはP. T. Oクラッチレバーは必ず「Ⓑ」位置にしてください。

### ③ セーフティストップレバー

緊急時にこのレバーを下に押し下げると走行クラッチレバー、P. T. Oクラッチレバーの解除が同時に出来ます。

### ④ 変速レバー

走行速度の選択に使用します。変速レバーでの切り換えは2段階ですが走行クラッチレバーの操作と併せて「前進」が①・②・③・④の4段階。中立「N」が変速ガイドに沿って一列に3ヶ所。「後進」は前進に同じく①・②の2段階です。

「前進」は「低速」①⇒②⇒③⇒④「高速」の順番で速度が速くなります。

「後進」は①⇒②の順番で速度が速くなります。

### 参考；

変速ガイドのマークはハンドル側に立ち、“前方”に向いた矢印が「前進」、同じく“後方”に向いた矢印が「後進」を表示しています。“青色”が低速、“赤色”が高速を表示しており、走行クラッチレバーのマークの色と対応しています。

- 安全のため操作は走行クラッチレバーを「Ⓑ」位置にして本機を停止させた後、変速操作を行い、再度走行クラッチレバーを「Ⓐ」位置にして作業を再開して下さい。

### ⑤ スロットルレバー

エンジン回転数の増減を調整します。

## ⑥ エンジンスイッチ

エンジンの「運転」・「停止」の操作を行います。

## ⑦ ハンドル上下・左右レバー

作業状況、又は作業者の体格に応じてハンドルの上下・左右の位置を調整します。

●ハンドル左右操作はハンドルを握って中心と右側に1ヶ所、左側に3ヶ所、合計5ヶ所で固定出来ます。

操作はハンドル回転板を固定している固定ボルト(M8×30)を外した後、レバーを親指でハンドル側に引き寄せて操作して下さい。その際、レバーをまず引き寄せてからハンドルを左右に振って下さい。同時に行うとレバー操作が極端に重くなります。

### ⚠ 警告

装着される作業機が牧草関連の場合は、ハンドルは必ず中心位置で使用して下さい。特に牧草モアーの場合はナイフが剥き出しの状態での高速回転をするため、この部分に近付いての作業は非常に危険です。

●ハンドル上下の操作は5段階に調整ができます。

操作はレバーを親指で押し下げて操作して下さい。

## ⑧ サイドクラッチレバー

本機の方向を変える時に使用します。

旋回する側のサイドクラッチレバーを握り、ハンドルを押し下げて作業機部を地面より少し浮かせて旋回して下さい。

### ⚠ 警告

旋回する場合には安全のため、必ずP、T、Oクラッチレバーは「」位置にして作業機の回転が完全に停止した後に旋回して下さい。

## ⑨ スタンド

作業機を装着しない場合のスタンドとして使用します。作業中スタンドは必ず解除しておいて下さい。

## ⑩ ヒッチロックレバー

作業機を装着した際の本機と作業機側を固定するものです。

装着する際には「解除」側に、装着した後は「ロック」側に倒します。

作業機を頻繁に交換しない場合には、取り付け部を付属のボルトで固定しておけばより確実に固定することが出来、取り付け部にかかる負担を軽減することが出来ます。

## ⑩ P、T、Oジョイント

本機側の回転を作業機側に伝達する箇所です。

## 《 上手な運転のしかた 》

### 運転前の始業点検

安全で快適な作業を行うために「定期自主点検表」〈30頁参照〉に従って始業点検をおこない、異常箇所は直ちに整備してから作業を始めて下さい。

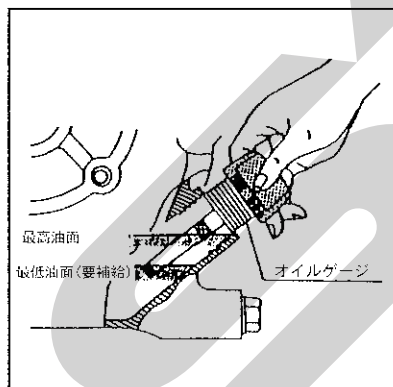
**▲ 注意** 本機に貼られている注意、危険マークも良く読んで下さい。

### エンジン始動・停止のしかた

#### ▲ 危険

- ①閉め切った室内でエンジンを始動しないで下さい。  
閉め切った室内でエンジンを始動すると …  
有害な排気ガスで空気が汚染され、ガス中毒をおこす恐れがあります。
- ②ガソリンエンジンを搭載していますので、くわえタバコや裸火照明はガソリンに引火したりして危険です。絶対に行わないで下さい。
- ③エンジンの始動時には、レバーの位置と周囲の安全を確認して下さい。
- ④エンジンの暖機運転は、閉め切った部屋では行わないで下さい。
- ⑤エンジンオイルの点検はエンジン停止後、エンジンが冷えるのを待って火傷に十分注意して行って下さい。

#### ■ エンジン始動のしかた



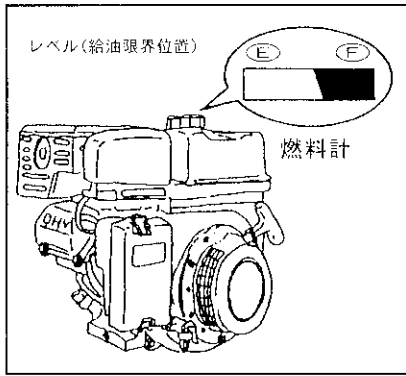
- ①エンジンオイルを確認して下さい。
- ◎給油栓がオイルゲージを兼用しています。  
オイルゲージの上と下の目盛線の間にはオイルがなければ上の目盛線までオイルが付くようにエンジンオイルを補給して下さい。

エンジンは水平にして給油栓はねじこまずに差し込んで点検し、エンジンオイル給油後は給油栓をしっかりと取り付けておいて下さい。

#### 参考；

使用するエンジンオイルはS D級以上の良質の新しいオイルを使用し、気温によって次のように使い別けて下さい。

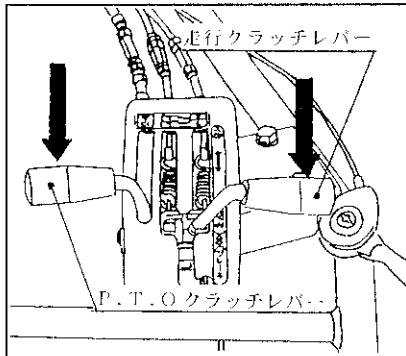
… 夏季(10℃以上)	SAE30、SAE10W-30、又はSAE40
冬季(10℃以下)	SAE5W20又はSAE10W-30



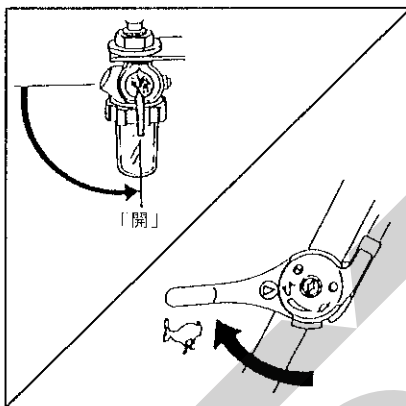
- ②燃料を確認して下さい。〈タンク容量は27頁参照〉  
燃料計のゲージが「E」に近付いたら早めにレギュラソリンを補給して下さい。


### ⚠ 危険

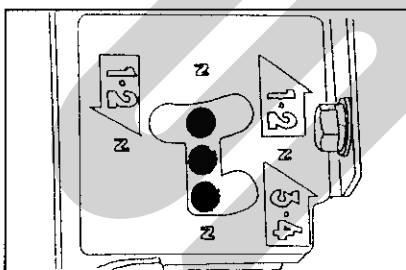
- ②・燃料を入れるときには必ずエンジンを停止させてから行って下さい。
- ・エンジンとマフラが冷えているのを確認した後、入れ過ぎて燃料をこぼさないよう注意し、もしこぼれた場合はきれいにふき取って下さい。



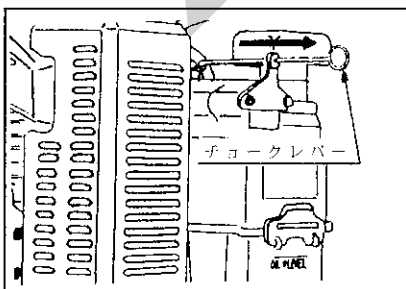
- ③走行クラッチレバー、P.T.Oクラッチレバーは共に「N」位置にして下さい。




- ④燃料コックを「開(ON)」位置にして下さい。  
⑤スロットルレバーを操作し、「」位置にして下さい。



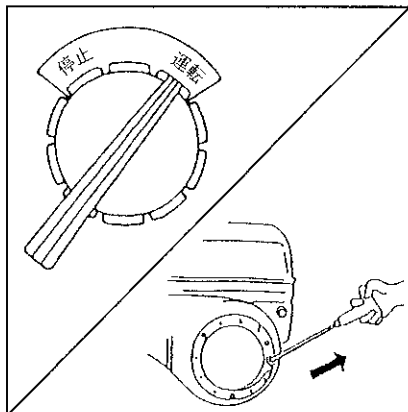
- ⑥変速レバーを中立「N」位置にして下さい。



- ⑦チョークレバーを操作して、「全開」の位置にして下さい。

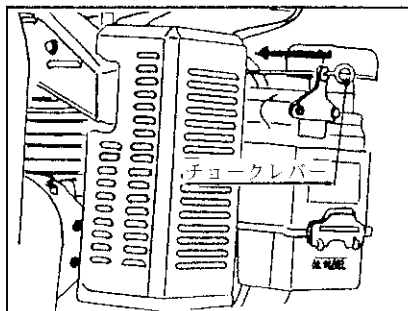
### 参考；

エンジンの暖機が済んでいる場合には、チョークレバーの操作は必要ありません。



⑧ エンジンスイッチを「運転 (ON)」位置にし、スタータノブを握り、ゆっくりと引いて圧縮を感じる位置から勢いよく引っ張ります。

エンジン始動後は、直ちにスタータノブをゆっくりと元の位置に戻して下さい。



⑨ エンジン始動後はチョークレバーを一杯に押し込んで、「全開」の位置にして下さい。

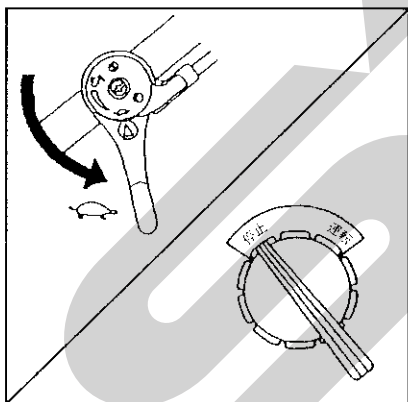
### 参考；

・エンジン始動後は、負荷をかけずに約5分間は低速側で暖機運転をして下さい。

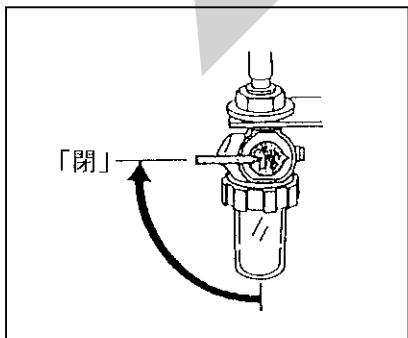
・暖機運転を行うことにより、エンジンの各部にオイルをいきわたらせ寿命を延ばします。(新品から最初の30~40時間は、過負荷をかけないように控えめな運転をして下さい。)

・チョークレバーを「全開」位置のまま使用すると、エンジン各部に悪影響を与え、エンジンの寿命を短くしますのでご注意ください。

## ■ エンジン停止のしかた



① スロットルレバーを低速側「低速側」位置にし、エンジンスイッチを「停止 (OFF)」位置にしてエンジンを停止して下さい。



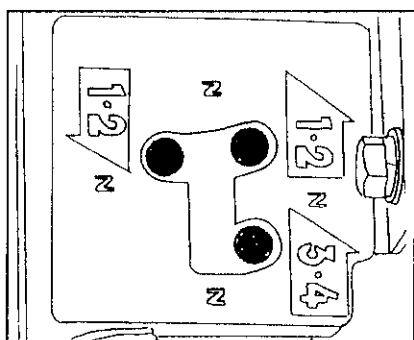
② 最後の燃料コックを「閉 (OFF)」位置にして下さい。

## 走行・旋回・変速・停止のしかた

### ⚠ 警告

- ・所有者以外の人には使用させないで下さい。
- ・走行するときは、周囲の安全を確かめてから発進して下さい。
- ・側溝や路肩の走行は本機の重みで地盤が崩れる恐れがあります。地盤が軟弱な場所での使用は十分に注意して下さい。
- ・勾配が10°以上の傾斜地での使用は、転倒・暴走の危険があります。このような場所での使用はしないで下さい。

### ■ 走行のしかた



①エンジンを始動させて下さい。

〈10頁…エンジン始動のしかた参照〉

②変速レバーを所要の変速位置に確実に入れて下さい。

### ⚠ 警告

変速（ギヤチェンジ）が不十分な場合、ギヤ抜けの恐れがあり大変危険です。

ギヤが入りにくいときには無理に入れずに走行クラッチレバーを「⊙」方向へ少し動かしてから再度、確実に変速を行って下さい。

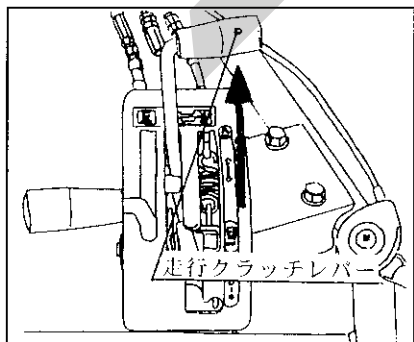
### 参考；



「前進」は4段階で「低速」①⇒②⇒③⇒④「高速」の順番で速度が速くなります。

「後進」が2段階で①⇒②の順です。（以上、走行クラッチレバーの操作も含む）

各変速位置の間には中立「N」位置が3ヶ所あります。〈8頁参照〉

- 安全のため「低速」側でスタートし、状況に合わせて徐々に「高速」側に変速するようにして下さい。



②スロットルレバーを「」と「」との中間位置にし、走行クラッチレバーを“低速”側、あるいは“高速”側の変速位置の「⊙」位置まで入れると走行します。

## ■ 旋回のしかた

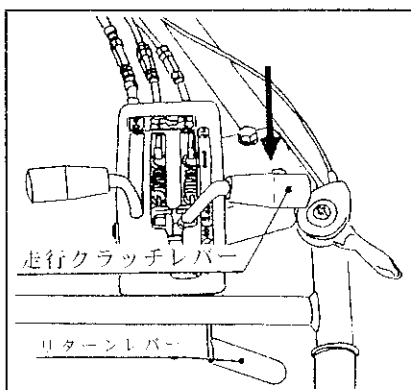
- 旋回する方のサイドクラッチを握り、ハンドルを振って行って下さい。

### 参考；

- ・ 旋回する場合には、ハンドル位置を高めにしてハンドルを下に押し下げ、作業機部を地面から少し浮かせた状態で行うとスムーズに旋回できます。
- ・ 周囲に十分注意しながら行って下さい。

## ■ 変速のしかた

- 「前進」①→②、③→④への切り換え、「後進」①→②への切り換えは走行クラッチレバーの入れ換えで行って下さい。



- ① 走行クラッチレバーを「㊸」位置にして下さい。

- リターンレバーでワンタッチ解除できます。

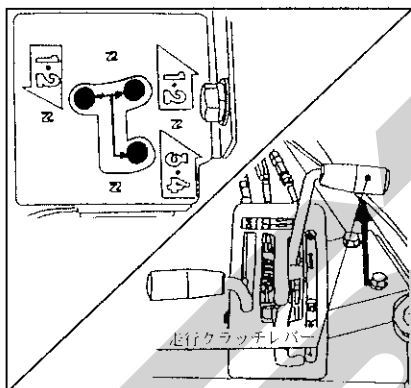
### ▲ 注意

- ・ 走行クラッチレバーを「㊸」位置のまま変速レバーの操作を行うと危険であると同時に故障の原因にもなりますので絶対に行わないで下さい。
- ・ 通常の“停止”の操作は走行クラッチレバーかリターンレバーで行い、セーフティストップレバーでの停止操作は緊急時のみ使用する様にして下さい。

- ② 変速レバーを操作し、所要の変速位置に確実に入れ換えて下さい。

- ③ 走行クラッチレバーを再び所要の変速位置の「㊸」位置まで入れて再発進して下さい。

参考； 前進「④」位置は移動専用とし、「④」位置での作業はしないで下さい。速度が速いために非常に危険です。



## ■ 停止のしかた

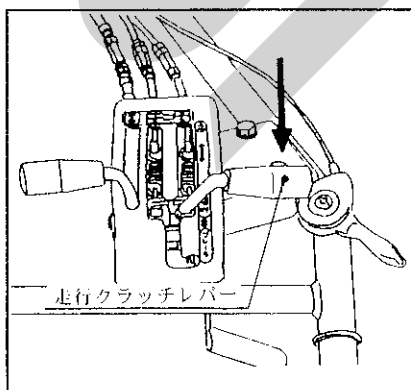
- ① 走行クラッチレバーを「㊸」位置にして本機を停止させて下さい。 <上記、変速のしかた参照>

- ② エンジンを停止して下さい。

<10頁…エンジン停止のしかた参照>

### ▲ 警告

本機から離れるときには、必ずエンジンを停止して下さい。



- 本製品にはアタッチメント(別売品)としてブレーキが用意してあります。傾斜地での作業の際にはこのブレーキの装着をお勧め致します。

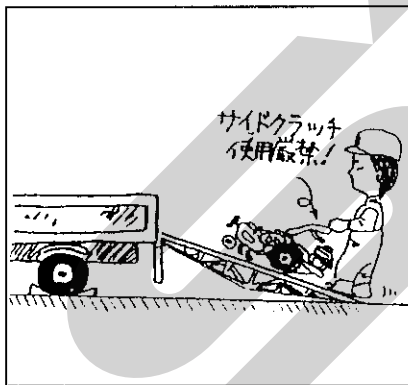


## トラックへの積み降ろしのしかた

### ▲ 警告

- ・運搬に使用する自動車は荷台に天井の無いトラックを使用して下さい。
- ・トラックへの積み降ろしは、平坦で安定した場所を選んで下さい。
- ・トラックは動き出さないようにエンジンを止め、ギヤをバックに入れ、サイドブレーキを引き、さらに「車止め」をして下さい。
- ・本機の正面は危険ですので、真正面には立たないで下さい。
- ・ブリッジのフックはトラックの荷台に段差のないよう又、外れないように確実に掛けて下さい。
- ・トラックへの積み降ろし時に、ブリッジの上で走行クラッチレバー、変速レバー、サイドクラッチレバーの操作は絶対にしないで下さい、転倒の恐れがあります。
- ・本機の左右のタイヤがそれぞれブリッジの中央に位置するようにして作業を行って下さい。
- ・本機がブリッジとトラックの荷台との境を越える時には、急に重心の位置が変わりますので、十分に注意して下さい。
- ・トラックに積んで移動する時には、十分に強度のあるロープで確実に固定し、荷台の上で動かないよう「車止め」を掛ければさらに安全です。
- ・本機単独、作業機単独での運搬は避け、必ずセットした状態で運搬して下さい。
- ・トラックへの積み降ろしの際には、作業機部を地面から浮かせて行って下さい。作業機がブリッジの溝に絡み転倒する恐れがあります。

### ■ 積み降ろしのしかた



- ①周囲に危険物のない、平坦な場所を選んで下さい。
- ②基準にあったブリッジを使用して下さい。
- ③スロットルレバーは「」、「」の中間位置にして下さい。
- ④積み込む場合は前進「①」、降ろす場合は後進「①」位置で行い、その他の位置には入れないで下さい。

### 参考； ブリッジ基準

ブリッジは、強度・幅・長さ・すべり止め・フックのあるものを使用して下さい。

- ・長さ…トラック荷台の高さの3.5倍以上のもの。
- ・幅…本機の車輪幅にあったもの。
- ・強度…本機の重量および作業者の体重の総和に十分絶え得るもの。
- ・スリップしないように表面処理が施してあるもの。

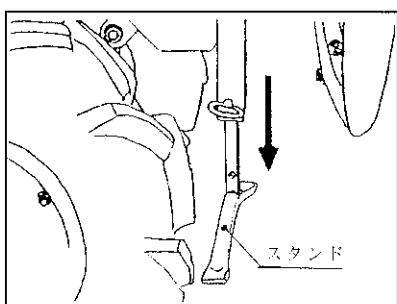
## 《 作業機脱着のしかた 》

- 本項目内では本機に装着される作業機の脱着方法について説明してあります。詳しくは装着される作業機に付属している取扱説明書をご覧くださいか、製品をお買い上げ戴いた販売店へお問い合わせ下さい。

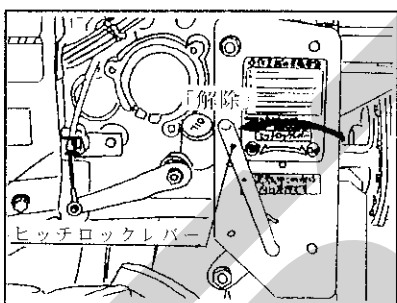
### ▲ 注意

- ・作業機の脱着の際には必ず本機、作業機を平坦な広い場所に置いてエンジンを停止し、十分安全を確認して行って下さい。
- ・作業は本機の両サイドクラッチを握った状態で行うと比較的楽にできます。

### 作業機の取り外しかた



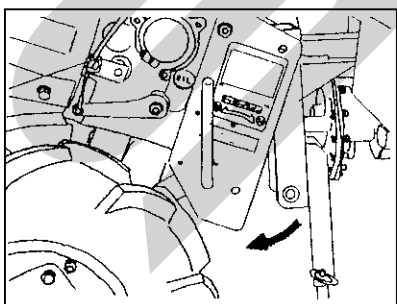
- ①本機のハンドルを一番低い位置にして、作業機側にスタンドがあるものはスタンドをセットして下さい。



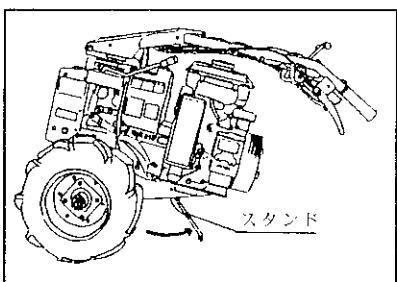
- ②ヒッチロックレバーを「解除」位置にして下さい。

### 参考；

ヒッチ部をセットボルトで固定している場合は、セットボルトを取り外しておいて下さい。



- ③本機のハンドルを上を持ち上げる様にして作業機と本機を切り離して下さい。

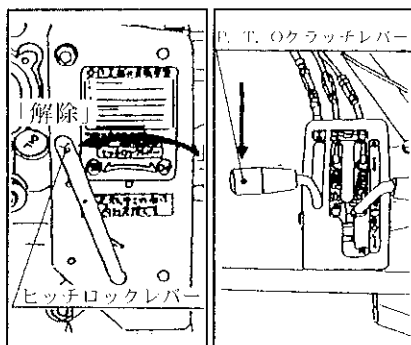



- ④本機を後方に移動させ、本機のスタンドをセットして作業の完了です。

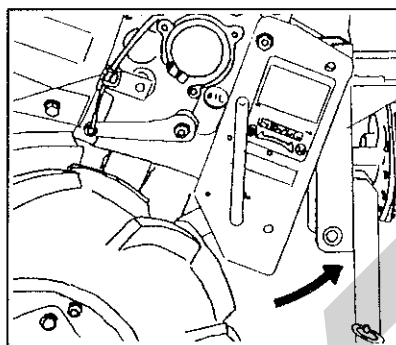
## 作業機の取り付けかた

### 参考;

本機に作業機をセットする場合には必ず本機と作業機は同一の平坦な場所で行って下さい。傾斜した場所や凸凹した場所では本機側と作業機側のヒッチの位置が合わず、セットすることができません。




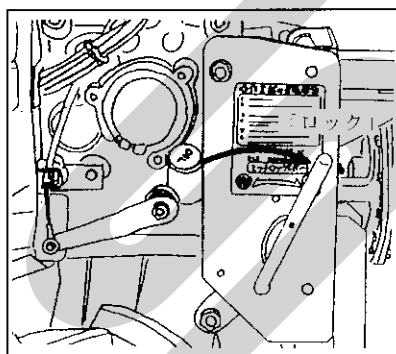
- ①本機のヒッチロックレバーが「解除」、P. T. Oクラッチレバーが「」位置にあることを確認して下さい。



- ②本機側のスタンドを倒し、“作業機の取り外しかた”と逆の要領で本機側のヒッチ上部で作業機側のヒッチ上部を下からすくい上げるようにして本機と作業機をセットして下さい。

### 参考;

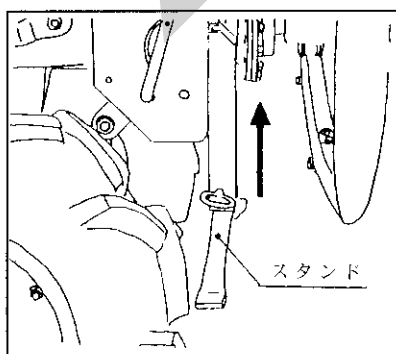
うまくセットできない場合は再度やり直すか、そのままの状態です P. T. Oクラッチを「」位置にし、スタータノブを少し引いてジョイント部を噛み合わせて下さい。



- ③ ヒッチロックレバーを「ロック」位置にして作業機を固定して下さい。

### 参考;

さらにセットボルトでヒッチ下部を固定すればヒッチ部にかかる負担を軽減することができます。

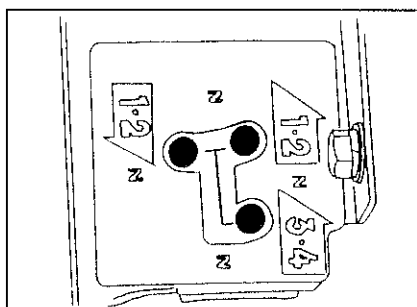


- ④ 作業機側にスタンドがあるものはそのスタンドを格納して下さい。

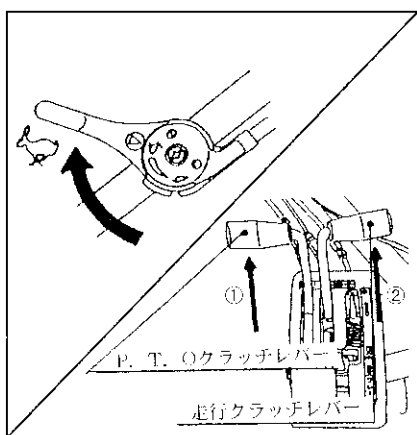
## 《作業のしかた》

- 作業機のセット後は以下の要領で作業を始めて下さい。 ●

### 作業の始めかた

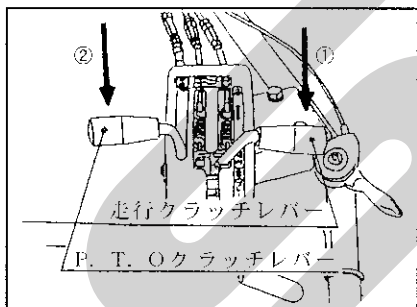


- ①エンジンを始動して下さい。  
 <10頁…エンジン始動のしかた参照>
- ②変速レバーを所要の変速位置に確実にに入れて下さい。  
 <11頁…走行のしかた参照>

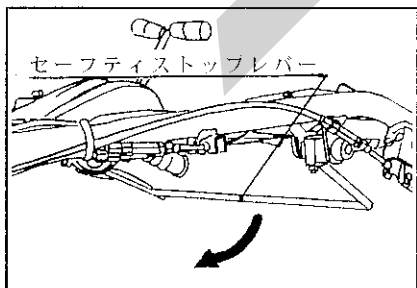


- ③スロットルレバーを「」位置にし、P. T. Oクラッチレバーをゆっくりと「」位置まで移動して下さい。  
**参考：**  
 特に“ハンマーナイフ”“牧草モア”での作業の場合、作業機のナイフが高速回転をするためにP. T. Oクラッチレバーをいきなり「」位置まで入れるとエンストする恐れがあります。
- ④走行クラッチレバーを“低速側”又は“高速側”いずれかの「」位置まで倒して作業を開始して下さい。

### 作業の終わりかた



- ①走行クラッチレバー又はリターンレバーを操作して「」位置にして下さい。
  - ②P. T. Oクラッチレバーを「」位置にして作業機を停止して下さい。
- セーフティストップレバーを下方方向に強く押し下げると、走行クラッチレバーとP. T. Oクラッチレバーを同時に“解除”することができますが、これは緊急時にもみ操作し、通常の作業では使用しないで下さい。
  - 傾斜地での作業にはブレーキ(別売品)の装着をお勧め致します。



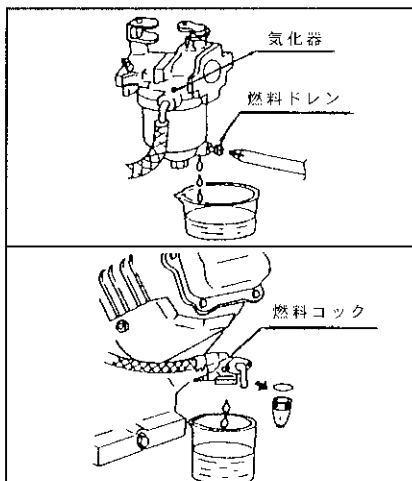
- ③エンジンを停止して下さい。  
 <10頁…エンジン停止のしかた参照>
- 作業機の脱着時、本機から離れる時には必ずエンジンを停止して下さい。

## 《長期保管のしかた》

### ⚠ 危険

★エンジンを停止して下さい。〈10頁参照〉

- ・くわえタバコや裸火照明での作業禁止。
- ・本機を保管する場合には、堅い平坦な場所で本機を水平にして下さい。
- ・燃料を抜く時は火気厳禁。
- ・風通しの良い場所で行って下さい。
- ・燃料タンク内のガソリンを抜く時は、エンジンとマフラが冷えてから行って下さい。
- ・抜いた燃料の取扱いは十分に注意して下さい。



①本機を30日以上使用しないときは、燃料変質による始動不良、又は運転不調にならないように燃料ドレンボルトを緩め気化器内燃料を排出すると共に、燃料コックより燃料タンク内の燃料を抜き、湿気のない場所を選んで保管して下さい。

②エンジン及び本機の外面をオイルの染みた布で清掃して下さい。

③エンジンオイルを交換して下さい。〈21頁…参照〉

④各部の清掃を十分に行って下さい。特にリコイルスタータ、エアクリーナ、マフラ、気化器付近やベルトカバー内に堆積した泥や草屑、ホコリをエア吹き等できれいに取り除き、サビが出ている箇所はサビを取り除いて防錆塗料を塗布しておいて下さい。

… 泥やホコリが堆積したまま作業を続けると…

泥等による目詰まりでエンジンが過熱し、焼き付や、火災の原因となります。

### 参考；

本機や作業機各部に付着した泥や草屑はこれが乾かない内にホース等で加圧した水で清掃を行うと比較的に洗い落とすことができます。

…このとき、エンジンの電装関係や気化器、エアクリーナ、マフラ排気口に水がかからないようにカバーをかける等して注意して下さい。エンジン始動不良の原因になります。

⑤各給脂・注油箇所それぞれ注油をしておいて下さい。

⑥屋根のある風通しの良い湿気の少ない場所に本機を水平にして保管して下さい。

⑦本機にカバー等をかけてほこりがつかないようにして下さい。保管中は、定期的にタイヤ空気圧を点検し、必要に応じて空気を入れて下さい。

## 《各部オイルの点検・交換・注油のしかた》

### ⚠ 注意

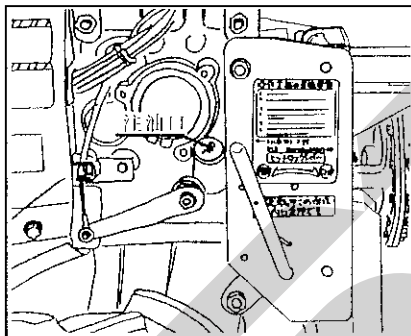
- ・出荷時本機にはオイルは入っておりません。使用前には必ず指定の箇所に指定の良質なオイルを指定の量だけ入れて使用して下さい。
- ・定期的なオイルの交換は、本機を常に最良の状態を使用するために是非必要です。
- ・各部オイルの点検・交換をする場合には必ず本機を平坦な広い場所においてエンジンを暖機運転した後停止し、本機各部が触っても熱くない程度に冷えるのを(約5分以上)待ってから作業を行って下さい。

…エンジン停止後、すぐに作業を行うと…

- ・エンジン本体各部はかなりの高温になっており、火傷の危険があります。
- ・エンジン停止直後はエンジン各部、ミッション各部にオイルがまだ残っており、正確な量が示されません。

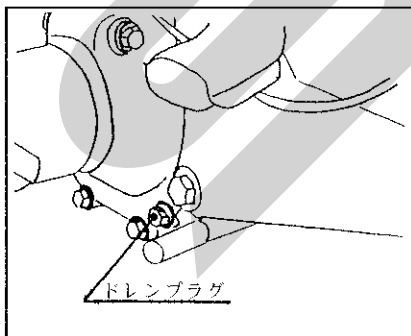
■ 交換後の廃油は適切な処理をして下さい。 ■

### ミッションオイルの注油・点検・交換



- ◎注油… ほぼ注油口一杯までです。  
ミッションケース上部の注油口よりミッションオイル(#90)を2.7ℓ入れて下さい。

- ◎点検…  
注油口よりミッションオイルが目視で確認出来ればほぼ規定量入っています。



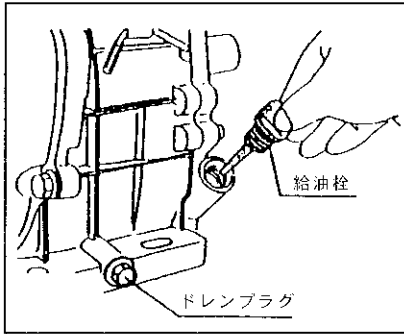
- ◎交換…  
オイルを受ける適当な容器を用意し、初回は20時間目、それ以降は100時間運転毎を目安にミッションケース左側面下部のドレンプラグ(排油口)を外して行って下さい。  
ドレンプラグを確実に取り付けた後、上記に従ってミッションオイルを注油して下さい。

### 参考;

排油時には、注油栓も取り外しておく、オイルが抜き取りやすくなります。

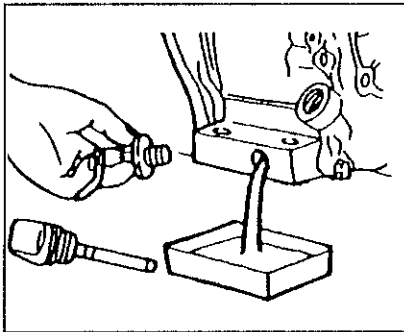
- 作業機側のミッションオイルについては作業機側の取扱説明書をご覧下さい。

## エンジンオイルの注油・点検・交換



### ◎注油・点検…

- ・毎日もしくは8時間毎に〈10頁…エンジン始動のしかた〉を参照にエンジンオイルの量、及び汚れを目視で点検し、規定量でない場合、及び汚れがひどい場合には補給又は全量交換（下記参照）します、  
（使用するエンジンオイルの質は10頁参照）



### ◎交換…

- ・初回は20時間目、それ以降は50時間運転毎を目安に交換して下さい。
- ・オイルを受け取る適当な容器を用意した後、エンジン後部にあるドレンプラグ（排油口）を外し、クランクケース内のオイルを抜き取ります。
- ・ドレンプラグを確実に取り付けた後、〈10頁…エンジン始動のしかた参照〉エンジンオイルを給油して下さい。

（使用するエンジンオイルの量については27頁《仕様》参照）

### 参考；

排油時には、注油栓も取り外しておく、オイルが抜き取りやすくなります。

給油栓の締め付けがゆるいと、オイルがにじみでてくる場合があります。

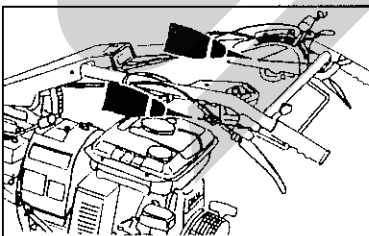
高負荷又は高温下での連続長時間使用の場合には、上記目安より早めの交換をお願いします。

## 各部への注油のしかた

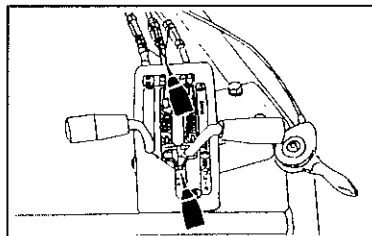
◎約30時間毎にグリス又はエンジンオイル(#30)を確実に注油して下さい。

注油を怠ると油切れによりサビ付や焼き付きの原因となり、操作が重くなって最悪の場合破損の原因となる恐れもあります。

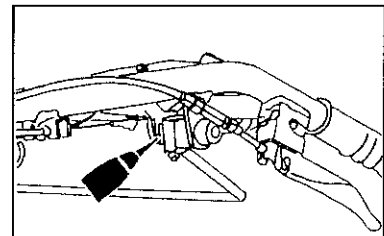
サメドクラッチワイヤ・レバー支点



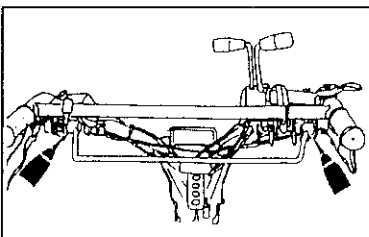
走行クラッチ・P、T、Oクラッチワイヤ・レバー支点



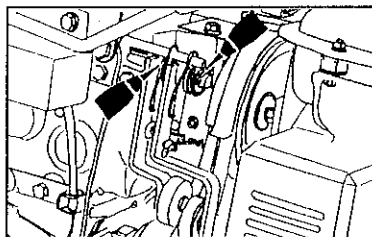
ハンドル上下・左右ワイヤ・レバー支点



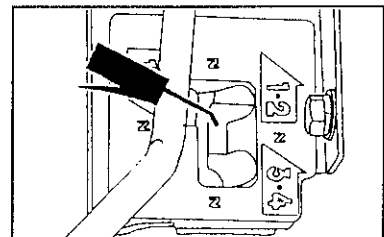
セーフティストップレバー支点



走行Wクラッチテンションアーム支点



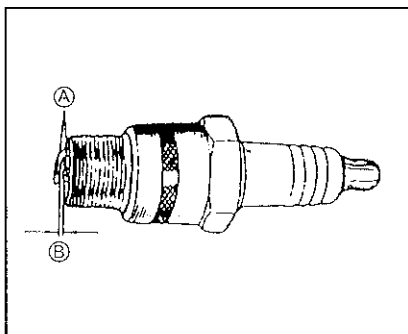
変速レバー支点（グリス）





## 《各部の点検・整備・調整のしかた》

### 点火プラグの点検・調整のしかた



- ①プラグレンチで点火プラグを外し、電極部分④にカーボンが付着していたらワイヤブラシでこれを除去し、湿りがあればこれを拭き取って下さい。
- ②中央陶器部にヒビワレ、また電極部分に消耗が認められた場合には点火プラグを新品と交換して下さい。
- ③点火プラグの電極隙間⑤を0.7～0.8mmに調整して下さい。

#### 参考；

締め付け時は、初め手でねじ込んでからプラグレンチを使用して下さい。

初めからプラグレンチで締め込むと、ネジ山を潰すことがありますので注意して下さい。

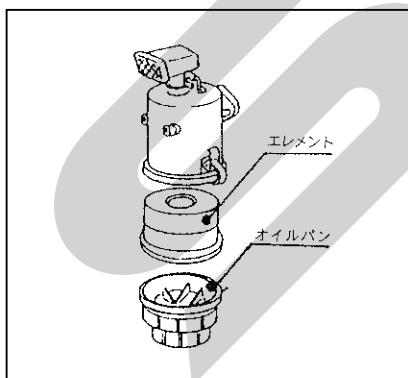
〈点火プラグ基準…27頁仕様参照〉

### エアクリーナの清掃のしかた

#### ⚠ 危険

エアクリーナが目詰まりをすると出力不足や燃料消費が多くなるばかりでなく、排ガス温度が上昇することにより火災の原因ともなりますので、必ず定期的に清掃して下さい。

…エアクリーナを取り外したままエンジンを運転しないで下さい。ゴミやホコリを吸い込み、エンジン不調やエンジンの異常摩耗の原因になります。…



- ①クランプを外し、オイルパンを外します。
- ②オイルパン内にたまった草屑、泥等を白灯油できれいに洗浄し、新しいエンジンオイル(SAE10W 30相当)をレベルまで入れて下さい。
- ③フォームエレメントは中性洗剤で洗浄後よく絞り、乾燥させて下さい。その後新しいエンジンオイル(SAE10W 30相当)に浸し、固く絞って余分なオイルを振り落として下さい。
- ④ケース内部の汚れをウエス等でふき取り、元の通りに組み付けて下さい。

#### 参考；

・洗浄する場合、エレメントを強く引っ張ったり、もんだりしないで下さい。エレメントが破れます。

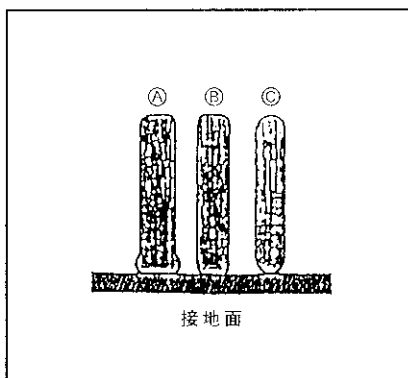


…エアクリーナの清掃、交換時期について

	清掃	交換
エアクリーナオイル …	—	50時間毎
フォームエレメント …	25時間毎	100時間毎

●チリやホコリの多い作業環境での使用は頻繁に清掃するように心掛けて下さい。

## タイヤ空気圧の調整のしかた



・タイヤの空気圧を、 $1.2 \text{ kg/cm}^2$ 位に調整して下さい。  
左右の空気圧が均等になっていないと、作業中ハンドルを取られる恐れがあります。

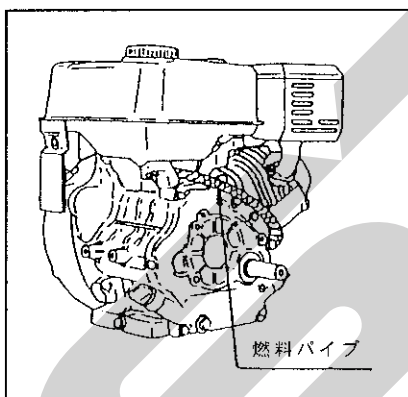
・外観から判断する目安は左図の通りです。

Ⓐ：不足

Ⓒ：過剰

Ⓑ：適正

## 燃料パイプの点検のしかた



### ⚠ 危険

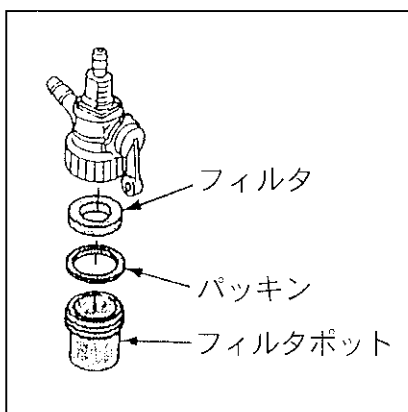
くわえたばこや裸火照明での作業禁止

- ・燃料パイプなどのゴム製品は、使わなくても劣化します。締付けバンドと共に3年ごと、または傷んだ時には新品と交換して下さい。
- ・パイプ類や締付けバンドが緩んだり、傷んだりしていないか常に注意して下さい。

### 参考；

パイプ類の交換時にパイプ内にホコリやチリが入らないように注意して下さい。

## 燃料フィルタポットの清掃のしかた



### ⚠ 危険

くわえたばこや裸火照明での作業禁止

- ・ 50時間使用ごとに燃料コック内部を清掃して下さい。
- ・ 作業はホコリやチリのない清潔な場所で行って下さい。
- ① 燃料コックを「閉(OFF)」位置にして下さい。
- ② 燃料フィルタポットを外し、燃料フィルタポット内部及びフィルタを引火性の低い灯油等の溶剤で洗い、エアを使って乾燥させて下さい。
- ③ 元の通りに確実に組み付けて下さい。

### ⚠ 危険

ガソリンやシンナ等の引火性の高い洗浄油は危険ですから使用しないで下さい。

### ⚠ 注意

- ・ 各部のボルト・ナット類に緩み、脱落がないか確認して下さい。
- ・ 各注油箇所に規定のオイルが規定量入っているか又、オイルの漏れはないか点検して下さい。
- ・ もしオイル漏れが確認できた場合には、お買い上げの販売店へご相談下さい。
- ・ オイル漏れの状態で使い続けると危険なばかりか、本機の破損にもつながります。
- ・ 各オイルの量の確認は、必ずエンジンを停止し、本機を水平にして行って下さい。

## そのほかの点検

- ① 各操作レバーが正しく作動するか確かめて下さい。(毎回始動時)
- ② Vベルトは初期伸びが多少ありますので、2～3時間運転後張り直して下さい。  
<25頁…走行クラッチワイヤ調整参照>
- ③ 本機を少し動かして異常音、異常発熱の有無を調べて下さい。
- ④ 各部を十分に馴染ませる為、最初の2～3時間は無理な作業はさけて下さい。
- ⑤ 作業後の手入れ、及び定期的な点検も忘れずに行って下さい。  
<30頁…定期自主点検表参照>

## 各部ワイヤ調整のしかた

### ▲ 注意

各ワイヤを調整する前には必ず本機を平坦な広い場所に置いてエンジンを停止し、点火プラグキャップを外した後十分安全を確認して行って下さい。

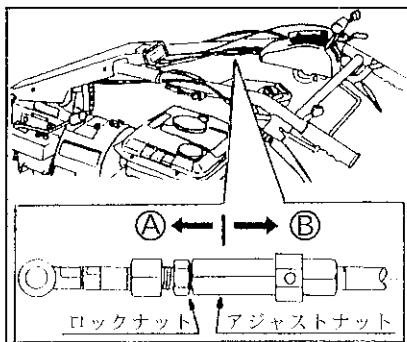


図 1

### 参考;

走行クラッチワイヤの調整は“低速側”“高速側”それぞれ単独に行い、走行クラッチを入れていない方のベルトは必ず停止することを確認して下さい。

クラッチが入っていない方のベルトがつき回りをするとベルトの寿命が極端に短くなるばかりでなく、本体各部に無理な力がかかり故障の原因となります。

## ■ 走行クラッチワイヤ

図 1 を参考に主クラッチワイヤのアジャストナットで調整して下さい。

- 走行クラッチを入れても負荷がかかると V ベルトがスリップする場合。

…アジャストナットをⓐの方向へ…

- 走行クラッチの切れが悪い場合。

…アジャストナットをⓑの方向へ…

## □ ベルト押さえ調整

新しい走行ベルトと交換した場合は以下の要領で走行ベルトのベルト押さえを調整して下さい。〈図 2 参照〉

- ① ベルト押さえの上、下を取り付ける際には、ベルトを張った状態で走行ベルトと上下のベルト受けの隙間が全周に渡って約 2 mm 程度となるように調整して下さい。

- ② 上記の走行クラッチワイヤの調整要領に従って調整を行って下さい。

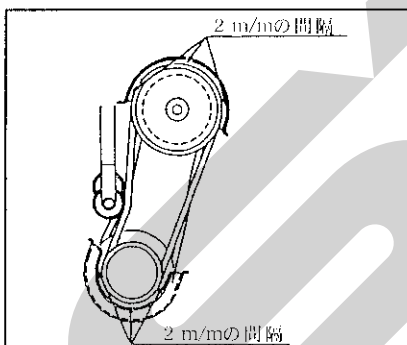


図 2

### 参考;

- ・ 走行ベルトは消耗します。常時点検し、異常があれば新品と交換して下さい。調整時期は以下の通りです。

走行ベルトサイズ… L A 2 6 × 2 本 (スーパーホワイト II)

調整時期 … 初回：20 時間目 以降：100 時間運転毎

- ・ 走行クラッチレバーには 3 mm ~ 5 mm 程度の遊びを持たせて下さい。
- ・ ベルトカバーは中の草屑等を取り除いた後、必ず装着して使用して下さい。
- 調整後はいずれもワイヤロックナットを確実に締め付けておいて下さい。
- 装着の方法が分からない場合は、お買い上げの販売店までご相談下さい。

## P. T. Oクラッチワイヤ

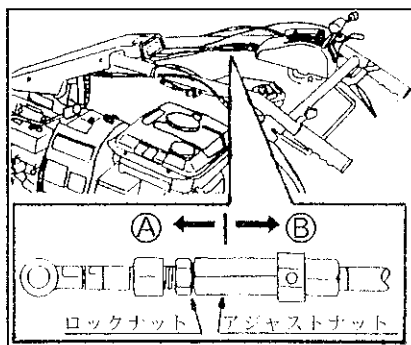


図 3

図 3 を参考に P. T. O クラッチワイヤのアジャストナットで調整して下さい。

- P. T. O クラッチを入れても負荷がかかると作業機の回転が止まる場合。

…アジャストナットをⒶの方向へ…

- P. T. O クラッチの切れが悪い場合。

…アジャストナットをⒷの方向へ…

## サイドクラッチワイヤ

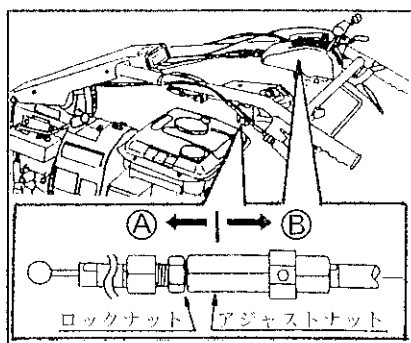


図 4

図 4 を参考に サイドクラッチワイヤのアジャストナットで調整して下さい。

- サイドクラッチレバーを離しても負荷がかかるとサイドクラッチが抜ける場合。

…アジャストナットをⒶの方向へ…

- サイドクラッチレバーを握ってもサイドクラッチが抜けない場合。

…アジャストナットをⒷの方向へ…

## ハンドル上下ワイヤ

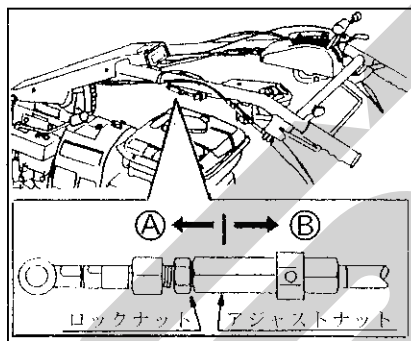


図 5

図 5 を参考に ハンドル上下ワイヤのアジャストナットで調整して下さい。

- レバーを操作してもハンドルの上下ができない場合。

…アジャストナットをⒷの方向へ…

- ハンドルの上下にガタが多く、負荷がかかるとレバーを操作しなくてもハンドルが上下してしまう場合。

…アジャストナットをⒶの方向へ…

## ハンドル左右ワイヤ

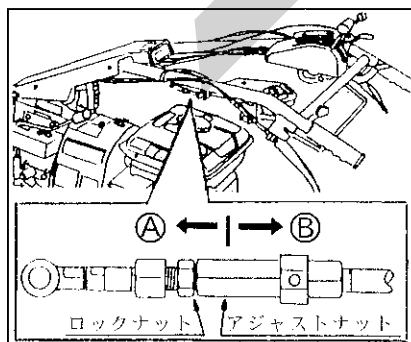


図 6

図 6 を参考に ハンドル左右ワイヤのアジャストナットで調整して下さい。

- レバーを操作してもハンドルの左右ができない場合。

…アジャストナットをⒷの方向へ…

- ハンドルの左右にガタが多く、負荷がかかるとレバー操作しなくてもハンドルが左右に動いてしまう場合。

…アジャストナットをⒶの方向へ…

- 各レバーにはいずれも 3 mm ~ 5 mm 程度の遊びを持たせて下さい。

- 調整後はいずれもワイヤロックナットを確実に締め付けておいて下さい。

《 仕 様 》

名 称	ニューファームメイト		
型 式 名	HTK・HTM/8070		
全長×全幅×全高(mm)	1030×780×920		
走行ベルト	LA26×2本(スーパーホワイトII)		
重 量(kg)	95		
タイヤサイズ	16×7.00-8B(φ400)		
車輪幅外径(mm)	780		
ハンドル上下・左右	ワンレバーワンタッチ可変式		
作業機脱着方式	ワンタッチE、H機構		
作業機駆動方式	I、P、Cシステム		
走行クラッチ方式	サイドクラッチ(ボールスプライン)		
速 度 (km/h)	前進	①0.85 ②1.75 ③3.19 ④6.59	
	後進	①0.85 ②1.75	
エ ン ジ ン	名 称	クボタ	メイキ
	型 式	GR250EGML	GM291LN
	潤滑油量(ℓ)	1.1	1.2
	総排気量(cc)	247	296
	最大出力(PS)	8.0	8.0
	始 動 方 式	リコイル	
	点火プラグ(NGK)	BP6HS	BP5ES
	燃料タンク容量(ℓ)	6.0	

※本仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

《工具袋・同梱品明細》

No.	部 品 名	規格・寸法	個数	備 考
①	取扱説明書		1	
②	品質保証書		1	
③	エンジン工具	エンジン付属	1	
④	両口スパナ	10×12	1	
	"	14×17	1	
⑤	ゴーグル		1	防曇タイプ

《消耗品明細》

No.	部 品 名	部 品 番 号	個数/台	備 考
①	走行ベルト	89-6122-002601	2	スーパーホワイトII
②	走行クラッチワイヤ	83-1761-937-00	2	
③	サイドクラッチワイヤ	83-1761-962-00	2	
④	P. T. Oクラッチワイヤ	83-1761-949-00	1	
⑤	ハンドル上下・左右ワイヤ	83-1761-965-00	2	
⑥	ジョイントダンパ	80-1751-512-00	1	
⑦	多板クラッチASY	80-1751-530-10	1	
⑧	危険マーク ⑧	83-1515-911-00	1	
⑨	" ⑨	83-1515-907-00	1	
⑩	" ⑩	83-1515-913-00	1	
⑪	注意マーク ⑫	83-1415-908-00	2	運転中は…
⑫	" ⑮	83-1761-908-00	1	総排気量300cc…
⑬	" ⑯	83-1516-915-00	1	安全のため…
⑭	" ⑳	80-1761-905-00	1	安全のため作業機なしの…
⑮	" ㉑	83-1487-908-00	1	緊急時以外は…
⑯	" ㉒	83-1516-908-00	1	このカバーなしの…

## 《定期自主点検表》

★点検や整備を怠ると事故の原因となることがあります。正常な機能を発揮させ、いつも安全な状態であるようにこの「定期自主点検表」を参考に点検を行って下さい。

★年次点検は1年に1回、月例点検は1ヶ月に1回、始業点検は作業を開始する前に毎日点検を行うようにして下さい。

項目	点検内容	点検実施時期				
		始業	月例	年次		
原  機	本 体  * * * *	① かかり具合、異音	始動の際、容易に起動するか。	○	○	○
		② 回転数と加速の状態	回転速度を徐々に上げ、正常に滑らかに回転するか。	○	○	○
		③ 排気の状態及びガス漏れ	排気色、排気臭及び排気音は正常か。	○	○	○
		④ エアクリーナの損傷、緩み、汚れ	損傷なく、取付け部に緩み、著しい汚れはないか。		○	○
		⑤ シリンダヘッドと各マニホールド締付け部の緩み	ガス漏れ、亀裂、著しい腐食はないか。 * (正常締付けトルクで緩みはないか。)			○
		⑥ 弁すきま	(正常のすき間であるか。)			○
		⑦ 圧縮圧力	(正常の圧縮圧力であるか)			○
		⑧ エンジンベースの亀裂、変形、ボルト・ナットの緩み	エンジンベースに亀裂、変形はないか。 ボルト・ナットに緩みはないか。	○	○	○
	潤滑装置	① 油量、汚れ	オイルの量は適切か。オイルに汚れ、水・金属等の混入はないか。	○	○	○
		② 油漏れ	オイルシール、ガスケット部に油漏れはないか。	○	○	○
		燃料装置	① 燃料漏れ	燃料の漏れはないか。	○	○
	② 燃料フィルタの詰まり		著しい汚れ、変形、目詰まりはないか。		○	○
	③ 燃料の量・質		燃料が入っているか。又質はよいか。	○	○	○
	電気装置	① 電気配線の接続部の緩み、損傷	ハーネス接続は適切か、又緩み、損傷はないか。		○	○
	清浄装置	① エアクリーナエレメントの汚れ	エアクリーナエレメントに汚れはないか。	○	○	○
		② エレメントの破損	エレメントに破れ、擦り切れはないか。	○	○	○
機 冷 却 系 統	① リコイルカバーへの草屑等の目詰まり	リコイルカバーが草屑等で目詰まりしていないか。	○	○	○	
	② マフラーへの草屑等の堆積	マフラー周辺に草屑等が堆積していないか。	○	○	○	
伝 達 装 置 等	V ベ ル ト	① 緩み	ベルトの張り具合は適切か。	○	○	○
		② 損傷、汚れ	亀裂、損傷、著しい汚れはないか。		○	○
	ミ ッ シ ョ ン	① 異音、異常発熱及び作動	作動に異常はないか、又異音、異常発熱はないか。		○	○
② 油量、汚れ		オイルの量は適切か、又著しい汚れはないか。			○	
③ 油漏れ		オイルシール、パッキン部に油漏れはないか。	○	○	○	
車 体	車 体 カ バ ー	① 亀裂、変形及び取付けボルト・ナットの緩み、脱落	フレームの亀裂、変形、ボルト・ナットの緩み、脱落はないか。		○	○
		② 亀裂、変形、腐食	亀裂、変形、腐食はないか。			○
	レバー及びワイヤ	① レバー及びワイヤ類の損傷、緩み、ガタ、割ピンの欠損	作動及び取付け状態、著しい損傷及び緩み、ガタ、脱落はないか。	○	○	○
走 行 装 置 等	タ イ ヤ  ( ホ イ ル )	① 空気圧及び溝の深さ	基準値内であること。	○	○	○
		② 亀裂、損傷及び偏摩耗	亀裂、損傷及び偏摩耗はないか。	○	○	○
		③ 金属片、石その他の異物の噛み込み	異物の噛み込みはないか。	○	○	○
		④ ボルト・ナットの緩み、脱落	ボルト・ナットの緩み、脱落はないか。	○	○	○
		⑤ ガタ、異音	取付け部に異音、ガタはないか。		○	○
	表示マーク	① 損傷	注意・危険・指示銘板が損傷なく取り付けられているか。		○	○

※ \*印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

## 《 自己診断表 》

もし次のような現象が発生した場合には、取扱説明書を参考にして適切な処置をして下さい。

現 象	原 因	処 置
ベルトがスリップする。	ベルトの張力が低い。	ベルトの張力を調整する。
	作業機カバー内に泥、異物が詰まっている。	作業機カバー内を清掃する。
	ベルトの摩耗。	新しいベルトと交換する。
車輪(タイヤ)がスリップする。	作業抵抗が大きすぎる。	作業深さを浅くする。
	作業機カバー内に泥、異物が詰まっている。	作業機カバー内を清掃する。
	圃場が湿っている。	圃場が乾くのを待ってから作業を始める。
作業負荷が大きい。	エンジン回転が低い。	エンジン回転を最高にする。(エンジン回転数をチェックする)
	作業速度が速い。	作業速度を落とす。
負荷がかかると作業機が停止する。	多板クラッチが焼けている。	多板クラッチを交換する。
	回転が伝達していない。	P、T、Oクラッチワイヤを緩める。
作業機が停止しない。	多板クラッチが付き回りしている。	P、T、Oクラッチワイヤを張る。
作業機を起動させると異音が出る。	ジョイントダンパの摩耗。	ジョイントダンパを交換する。
	多板クラッチが焼けている。	多板クラッチを交換する。
作業機停止時に異音が出る。	多板クラッチのブレーキが滑っている。	P、T、Oクラッチワイヤを張る。
作業機がうまくセットできない。	P、T、Oジョイントが噛み合っていない。	ジョイント位置をずらす。
多板クラッチより煙が出る。	半クラッチ状態になっている。	P、T、Oクラッチワイヤを調整する。
		多板クラッチを交換する。
ハンドルの左右ができない。	回転板がボルトで固定されている。	固定ボルトを取り外す。
ベルトが早期に切断する。	ベルトが付き回りしている。	ベルト押さえ(上) or (下) を調整する。
	ベルト押さえ(上) or (下) がベルトと接触している。	
PTOクラッチを入れるとエンジンが停止する。	PTOクラッチを急激にⒶ位置にした。	PTOクラッチのⒶ⇨Ⓑは徐々に行う。

※分からない場合は、お買い上げいただきました販売店にご相談下さい。



## 《 エンジンの不調とその処理方法 》

もしエンジンの調子が悪い場合があれば、次の表により診断し適切な処理をして下さい。

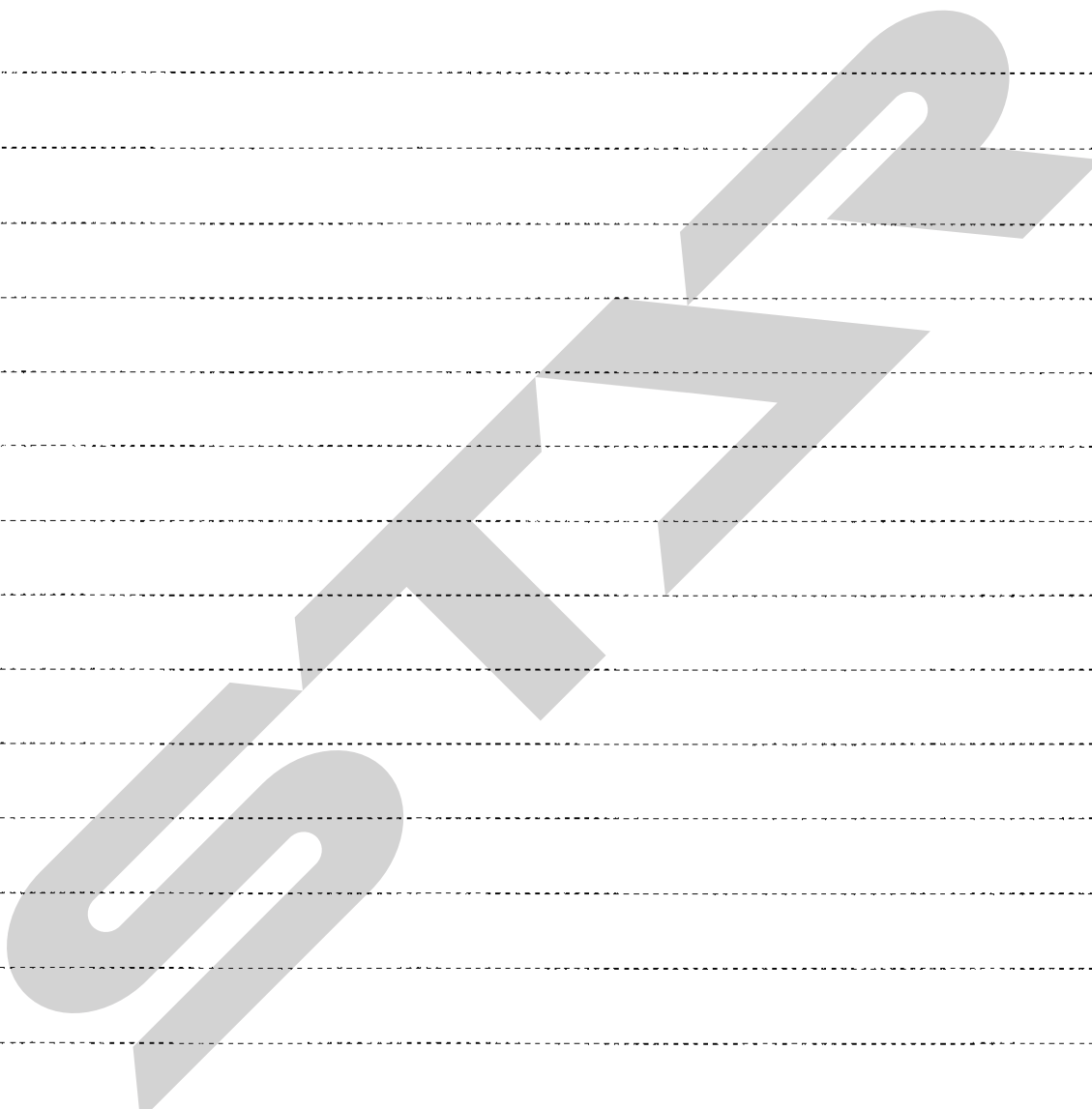
現象	原因	処 理
始動困難な場合。 (始動しない場合)	アクセルレバーが「始動」の位置でない。	アクセルレバーを必ず「始動」の位置にする。
	チョークレバーを引いていない   +   の位置でない。	エンジンが冷えている時、チョークレバーをひいて   +   の位置にする。
	燃料が流れない。	燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を取り除く。
		燃料コックのストローナカップを取り外し、カップ内の沈殿物を除去すると共にフオルタに付着しているゴミを取り除く。
	燃料送油系統に、空気や水が混入している。	異物を取り除き、パイプ及び締め付けバンドを点検し、損傷があれば新品と交換又は補修しておく。
	寒冷時にオイルの粘度が高く、エンジン自体の回転が重い。	気温によってオイルの使い分けをする。
	点火コイル、又はユニットの不良。	* 点火コイル、又はユニットを交換する。
点火プラグの不調。	点火プラグの電極のスキマを点検し調整する。	
	新しい点火プラグと交換する。	
出力不足の場合。	燃料不足。	燃料を補給する。
	エアクリーナーの目詰まり。	エレメントを清掃する。
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
	チョークが完全に開いていない。	チョークレバーを完全に戻す「開」位置にする。
	冷却系統が目詰まりをしている。	リコイルカバー周辺を清掃する。
突然停止した場合。	燃料不足。	燃料を補給する。
	燃料コックが開いていない。	燃料コックを開く。
排気色が異常に黒い場合。	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
	エンジンオイルの入れ過ぎ。	正規のオイル量にする。
マフラから黒煙が出て出力が低下した場合。	エアクリーナーエレメントの目詰まり。	エレメントを清掃する。
	チョークが完全に開いていない。	チョークレバーを完全に戻す。「開」位置にする。
マフラから青白煙が出た場合。	エンジンオイルの入れ過ぎ。	正規のオイル量にする。
	シリンダ・ピストンリングの摩耗。	* リングを交換する。
エンジンの回転が安定しない。 (エンジン回転が上昇しない)	チョークレバーが開いていない。	チョークレバーを完全に戻す。「開」位置にする。
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
しばらくするとエンストする。	点火コイルの不良。	* 点火コイルを交換する。
	燃料フィルタの目詰まり。	燃料フィルタを清掃する。
排気臭に刺激がある場合。	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。

※ \*印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

※わからない場合は、お買い上げ頂きました販売店にご相談下さい。

MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing.



SFAA

本 社	066 8555	千 歳 市 上 長 都 1 0 6 1 番 地 2	TEL0123-26-1123 FAX0123-26-2412
千 歳 営 業 所	066 8555	千 歳 市 上 長 都 1 0 6 1 番 地 2	TEL0123-22-5131 FAX0123-26-2035
豊 富 営 業 所	098 4100	天 塩 郡 豊 富 町 字 上 サ ロ ベ ツ 1 1 9 1 番 地 4 4	TEL0162-82-1932 FAX0162-82-1696
帯 広 営 業 所	080-2462	帯 広 市 西 2 2 条 北 1 丁 目 1 2 番 地 4	TEL0155-37-3080 FAX0155-37-5187
中 標 津 営 業 所	086-1152	標 津 郡 中 標 津 町 北 町 2 丁 目 1 6 番 2	TEL0153-72-2624 FAX0153-73-2540
花 巻 営 業 所	028-3172	岩 手 県 花 巻 市 石 烏 谷 町 北 寺 林 第 11 地 割 120 番 3	TEL0198-46-1311 FAX0198-45-5999
仙 台 営 業 所	983-0013	宮 城 県 仙 台 市 宮 城 野 区 中 野 字 神 明 179-1	TEL022-388-8673 FAX022-388-8735
小 山 営 業 所	323-0158	栃 木 県 小 山 市 梁 2 5 1 2 - 1	TEL0285-49-1500 FAX0285-49-1560
岡 山 営 業 所	700 0973	岡 山 県 岡 山 市 下 中 野 7 0 4 - 1 0 3	TEL086-243-1147 FAX086-243-1269
熊 本 営 業 所	861-8030	熊 本 県 熊 本 市 小 山 町 1 6 3 9 - 1	TEL096-389-6650 FAX096-389-6710
都 城 営 業 所	885-1202	宮 崎 県 都 城 市 高 城 町 穂 満 坊 1003-2	TEL0986-53-2222 FAX0986-53-2233